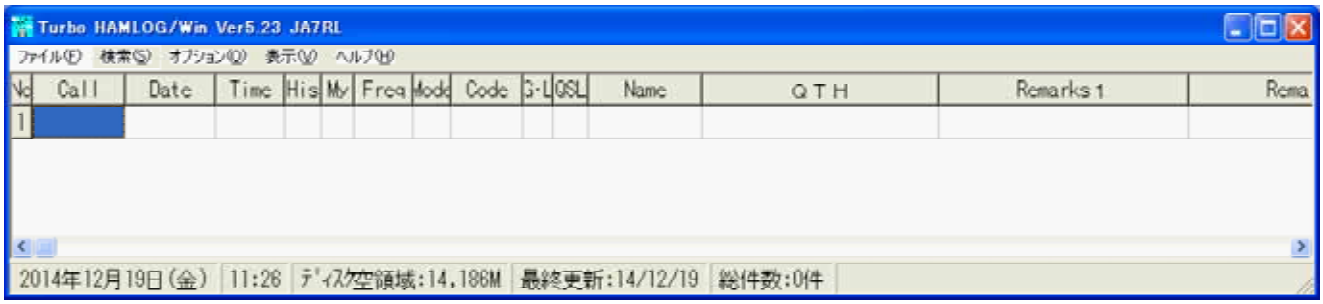
ターボハムログの使い方「入力編」(超初心者向け)

【始めに】
　ターボハムログ(以下ハムログ)は、交信記録簿(紙ログ)の電子版です。日本で多くのアマチュア局に使われ、使い勝手の良いソフトで、日々バージョンアップされています。
　先ず、インターネットから「ターボハムログ」ソフトや「道の駅 Get's 」をダインロードして下さい。
ハムログ圧縮ファイル(Thw526a.exe)をダブルクリックし、インストールします。
可能であれば
　==>〔例〕Cドライブに「Hamlog」というファイルを作ると良いと思います。
指示に従ってインストールすると注意書きや変更点などが表示されます。

★★　早速ハムログを使ってみましょう
デスクトップのハムログのアイコンをクリックします。
「・・・がオープンできません。新規作成しますか？」　と表示されますので「はい」をクリックして下さい。
下の様なハムログのデータ画面がでます。

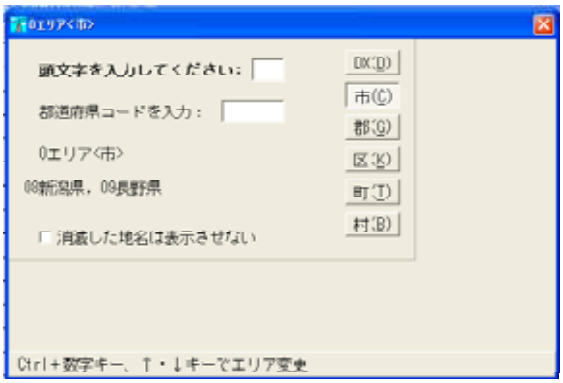


【ハムログデータ画面】
「Enter」キーを押すと下のような「データ入力画面」が出ます。(ウインド色は緑に変えてます)

【データ入力画面】

★★ データを入力してみましょう。
★　不明の蘭は入れなくても良いです。(後で修正可能です。)
●[Call]の欄に相手のコールサインを入力し、[Enter] キーを必ず押します。
一番上の「青色帯」に、入力したコールサインが表示され、その下の枠に「1st　QSOです」が表示されます。
●〔Date〕は、年月日を入れてます。
　==>[↓]キーを押すと現在の〔Date〕〔Time〕が〔His〕と〔My〕にSSBの時は”59”が入力されます。
●〔Time〕は、交信開始時間を入れます。
●〔His〕は、相手に送ったレポートを入れます。
●〔My〕は、相手からいただいたレポートを入れます。
●〔Freq〕は、周波数(7でも7.070どちらでもOKです)
●〔Mode〕は、モード(SSB、J3Eどちらでも OKです)
●〔Code〕は、QTHの”市、区、郡、町、村”のJCC／JCG番号(記号)です。
　==>使い方は、
①F5:市、F6:郡、F7:区、F8:町,F9:村に対応していますので、その対応しているキーを押します。

●またはF5～F9のどこかのキーを押し、次の画面の右側から選択します。
②)〔頭文字を入力して下さい〕の所に、QTHの「頭文字1文字(ひらがな)」を入力します。
●または下の〔都道府県コードを入力〕の所に、
「JCC／JCG」番号を入力しますと市郡区町村リストが出ます。
市、区、郡、町、村名を指定して「ダブルクリック」するか[Enter]キーを押します。
〔Code〕にはJCC/JCG番号が〔QTH〕には市区郡町村名が入力されます。
なお、町村名の後ろのアルファベットは「ハムログの記号」です
●〔G. L〕は、グリットロケータを入れます。
(QSLｶｰﾄﾞを受領してから入力して下さい)
●〔QSL〕は、QSLｶｰﾄﾞについて3文字が入ります。
左側に”J”が入っています。下枠の「QSL蘭について」を参照
●〔His Neme〕は、相手の名前を入れます。
●〔 Remarks 1〕と〔 Remarks2 〕はメモ等を書き込んで下さい。
(空欄で OK です)
　＝＝＞私は、Remarks1を相手の情報、Remarks2は自分のメモ用に使っています。
●[Clear] は、入力中のデータを消去します。
また「 Tab 」キーでも消去できます。(環境設定が必要)
●[Save]は、どの項目にカーソルがあってもデータを保存します。
なお[Remarks2] にカーソルがある場合は「 Enter 」キーで保存できます。
〔Save〕をクリックしますと、「保存しますか?」「はい」をクリックして「保存」して下さい。
　＝＝＞〔ハムログデータ画面〕に1局目のデータが表示され、新しい入力画面になります。
★入力はひとまず終わりです。



【 Code 入力画面】

【市区郡町村リスト画面】

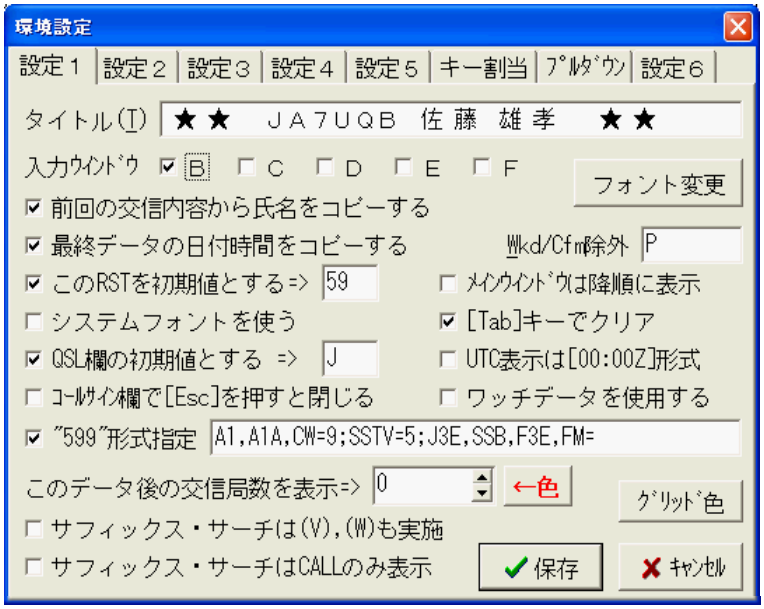
★QSL蘭について。(参照:QSLｶｰﾄﾞ印刷の部)
〔例えば〕1番目の文字J:JARLビューローへ、D:ダイレクト M:マネージャ経由、N:発行しない。
O:ワンウエー、・・・・・　などと自分で決めます。
==>Mはハムログで規程されています。QSLマネージャーに送る場合、[Remarks]の1か2にQSLﾏﾈｰｼﾞｬｰのコールサインの前に @ を付けて書込ます。 JARL転送枠には「マネージャーのコールサイン」が、To Radioに「相手のコールサイン」が印刷されます。(JARL転送枠の左上に”Via”と書きます)
Nは、印刷設定で印刷しないように区別します。(詳細:印刷編参照)
● 2文字目は、印刷設定で「QSLマーク文字」を指定した文字が印刷終了時に自動入力されます。
● 3文字目は、QSLカードが届いた時にQSL蘭に”＊”マークを入れます。QSLカードを得たマークです。

●大変でしょうが数局入力して下さい。
●データが多くある局は新しいデータから、少ない局は古いデータから入力したほうが良いと思います。
●数局入力すると、前にQSOした局が出てきます、一番上に「2回目の交信です」と表示されますので、そのデータを取り込むとQTH, Code, QRA等がコピーされ、入力が省けます。
●データは順番に入れる必要はありません、入力したい項目をクリックします。(修正や削除は後ほど)

★★　データを数局入力しましたら入力を止め、次の〔環境設定〕と〔入力環境設定〕を行って下さい。
●ハムログシリーズには色々なソフトが有りますのでダウンロードして活用下さい。

環　境　設　定

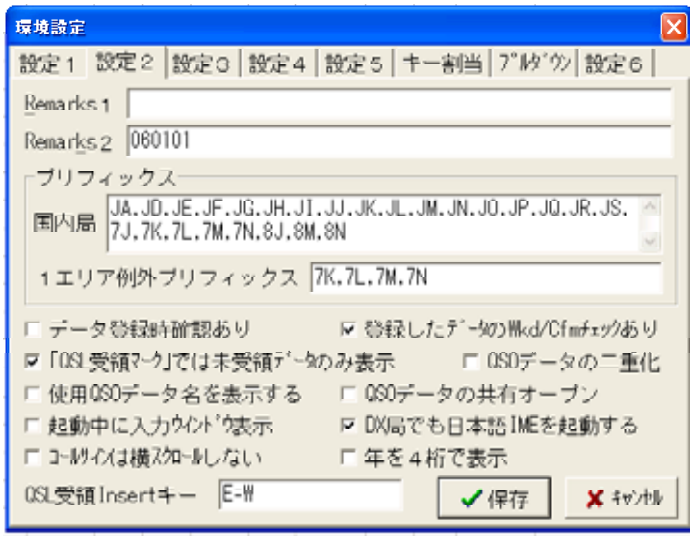
★★「環境設定」を行います。
データ入力が早くなります。
始めは環境設定を大凡設定します。
必要に応じて設定を変更します。
〔オプション〕→〔環境設定〕を選びます。



【環境設定－設定1の画面】

★設定1
タイトル(T)に「自分のコールサイン」を入れます。
次の項目"□"にチェックを入れます。
■前回の交信内容から氏名をコピーする。
既に入力データがある場合に名前、QTH等を取込みます。
■最終データの日付時間をコピーする。
以前の紙ログ、コンテスト、移動した時のログを後日入力する場合はチェックを入れます。
最終データの日時を取り込みます。
3つの使い分けができます。
　□の"レ"が灰色:分を書き換える時。
　□の"レ"が黒色:時から書き換える時。
　□にチェックなし:現在時刻が入力されます。
■QSL欄の初期値とする＝＞「J」 JARLビューロー経由の場合。
QSL欄の1文字目に入力する文字です。〔データ入力画面〕で変更が可能です。(参照:前のQSL蘭)
■599形式指定(RTTYやSSTV等の時に書き込みます)
■[Tab]キーでクリア　入力画面で Tab キーを押すと入力中のデータが消去されます。「Clear」と同じ)

★設定2
Remarks1と2は、Remarks1や2に「文字列」が書き込まれている場合はその文字がデータに入ります(空欄でOK)
【その他の利用方法】
◆コンテストのデータ抽出のためにはJCC/JCG番号をRemarks2に入れておきます。
◆QSLｶｰﾄﾞに印刷したい文を入れます。
〔例えば〕○○記念、○○移動、○○ｺﾝﾃｽﾄ等。　＝＝＞印刷を参照して下さい。
■登録したデータのWkd/Cfmのチェックあり　「市郡区町村リスト」にQSO状況(C/W)を表示します。〔注1〕
他は必要と思う所にチェックを入れて下さい。
□データ登録時確認あり
(チェックを外した方が早くセーブできます)



【環境設定－設定2の画面】

★設定3
自局の緯度経度がわかっていたら入れます。
○「G･L計算」をクリックしますと自局のグリットロケータが表示されます。他局のG･L計算もできます。
■方向と距離を表示する
■方向の矢印を表示する
○自局の緯度経度が入っていれば、入力画面に赤の→で相手局の方向と距離が表示されます。
■ｺｰﾙｻｲﾝ入力時はｽﾍﾟｰｽ･ｷｰを押すと"/"
移動局の"/"入力に便利です
■過去のQSOからQTHを取得
既に入力データがある場合に固定の住所を取込みます。

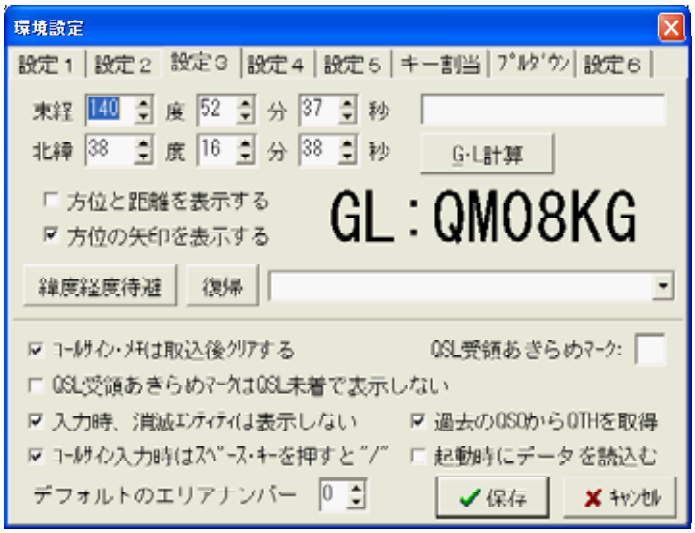
★設定4、★設定5
時計は、インターネットでパソコンの時計をきちっと合わせておきます。
○リグのモード所得等は、好きな表示形式を選びます。

●その他必要な処にチェックを入れたり外したりして下さい。
●パソコンにリグの周波数やモードのデータが送れます。
　＝＝＞専用接続ケーブルが必要です。
(ケンウットのケーブル接続方法はヘルプ参照)
■1行おきに色を付ける　←色
〔入力データ画面〕に1行おきに色を付けます。
　←色をクリックして好きな色を付けて下さい。
(データが見やすくなります)

★キー割当(ショートカットキー)
検索やデータ入力・修正時に便利です。
必要に応じて設定して下さい。

〔例〕コールサイン部分文字列をクリックし、
[Ctrl]＋[F]を押すと上の空欄に「Ctrl＋F」が入力されます。横のOKをクリックします。
(必要に応じてこの操作を繰り返して下さい)
最後に「保存」をクリックして、終了します。

＜参考＞ウインドーズでは次ぎが決められています。
[Ctrl]＋[A]:全部指定。[Ctrl]＋[C]:コピー、
[Ctrl]＋[V]:貼り付け。[Ctrl]＋[Z]:元に戻す等。
但し、[Ctrl]＋[F]:検索。[Ctrl]＋[S]:保存などはハムログでは使われていないようです。



【環境設定－設定3の画面】

●キー割当を使うと、コールサイン検索やQSL蘭にQSLカードの受領マークを入れる時に便利です。
　＝＝＞〔データ入力画面〕で実行します。
〔例〕[Ctrl]＋[F]を押すと「コールサイン部分文字列」の画面が表示されます。プリフィックスやサフィックスを力します。
該当するデータが表示されます。

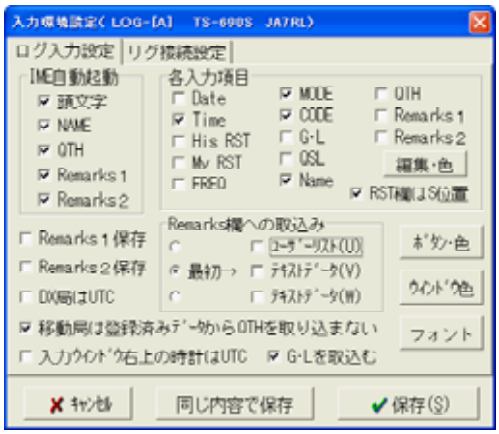
★プルダウン
「 Freq 」には周波数を「 Mode 」にはモードを入れます。
[Remarks]に良く入力する文字「ニューイヤーパーティ」、「○□コンテスト」等を入れます。
〔データ入力画面〕の各項目でパソコンの↓矢印キーを押します。表示がでますので選択し入力します。

★設定6
ここの設定はそのままにして[保存]をクリックします。
(設定画面が自動的に閉じます)
各項目の文字数設定は＜印刷編を参照して下さい＞
可能であれば道の駅などをアドレスに追加します。
〔例〕C:¥hamlog¥michino.exe)
「データ入力画面」の「ヘルプ」から、設定してあるインターネットの「ホームページ」に直接繋がります。

〔注1〕QSO状況(C/W)でC(Cfm):QSLカード受領済み、W(Wkd):QSOのみ。時々次の操作を行って下さい。
〔表示〕〔Wkd/Cfmマスターデータ集計〕集計画面が出ますので〔再集計〕をクリックして下さい。
集計結果が表示されます。〔閉〕で終了します。

入力環境設定

★★「入力環境設定」を行います。
★入力しない項目はチェックを外します。
チェックのない項目は無視し飛び越しますので、入力が早くなります。
●なお、チェックを外した項目でも「データ入力画面」でその項目をクリックすれば、戻って入力や修正ができます。
「IME自動起動」にチェックが入っていれば、その項目は日本語入力モードになります。
「Remarks1保存」や「Remarks2保存」にチェックを入れれば、データー保存後、次のデータに文字が残ります。
ニューイヤーパーティ、コンテスト、自局が移動した時に便利です。
●但し、過去のデータをすべて読み込んだ時は、そのデータが優先されて取込まれますので注意。



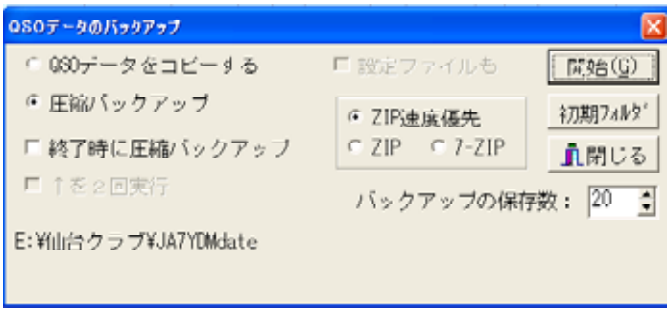
【入力環境設定の画面】

[G・Lを取込む]にチェックを入れれば、過去の固定のデータからグリットロケーターが読み込まれます。
〔編集・色〕は、編集画面の色を変えます。〔データ入力画面〕と〔編集画面〕の色を別々にすれば判りやすいです。
設定が終わりましたら「同じ内容で保存」をクリックし、終了します。
★〔環境設定〕や〔入力環境設定〕でデータ入力は楽に早くなり、各項目も理解できたことと思います。

★★　QSOデータを追加しましょう。
★データ入力時に次のことができるように変わりました。
●ハムログデータ画面の最上段に「自局のコールサイン」が表示されるようになりました。
●相手局が移動している場合、コールサインを入れ、スペースキーを押すと"／"が挿入されます。
●データ入力中に、各項目の所で［↓］キーを押します。登録した文字等が出ますので、項目を選び入力します。
●以前にQSOしていて、固定局であれば〔Code〕、〔QTH〕、〔G.L〕、〔Nime〕が入力されます。
　＝＝＞データが複数あれば指定して、「右クリック」し、データの一部または全部、QTH等を選び取り込みます。
●［Tab］キーでも入力中のデータが消去できます。(環境設定)

★★　QSLカードを受領した時は、QSL蘭にマーク"＊"を付けます。
＝＝＞データの修正編の「QSOデータの修正」を参照して下さい。

★★　時々データをUSBメモリー等にバックアップを取ります。
パソコンが壊れた時(買い換えた時)に復帰が可能です。
〔ファイル〕→〔QSOデータのバックアップ〕を選び、
○圧縮バックアップを選びます。
　〔初期フォルダ〕をクリックします。
　保存する場所がたずねられます。
　USBメモリー等を指定すます。
〔例、リムーバルデスク、E:¥Hamlog¥〕
データ(ファイル)はUSBメモリーに
「BK20170213_1715_000012345,zip」
のように作られます。



【 QSO データのバックアップ画面】

　BK2017年02月13日_17時15分_QSO数が000012345,zip　　QSO数が12345局の圧縮ファイルと言う意味です。
日付とQSO数を確認しましょう。
●次回からは、〔ファイル〕→〔QSOデータのバックアップ〕を選び、〔開始〕をクリックします。

★★　その他　★★
★1台のパソコンを家族や複数のコールサインで使う事ができます。
＜注意＞**A局とB局のデータが混同する場合があります。**
●ハムログを終了する前に必ずバックアップを取ります。
　＝＝＞前のデータのバックアップ参照
(A局の場合)〔ファイル〕→〔QSOデータのバックアップ〕→〔初期フォルダ〕をクリックし「C:￥Hamlog」を選び、
「開始」をクリックし保存します。
★次ぎに、別コールサイン用に、別の所に「ファイル」を作ってハムログのインストールします。
〔オプション〕→〔データの保守〕→〔別コールサイン用にインストール〕を選びます。
　＝＝＞ハムログを「**インストールする場所**」の指定は、
　〔例えば〕「Club」(自分のコールサインでも可)と言うファイルを作ります。
インストールを開始します。
★環境設定、設定1のタイトル(T)に「自分のコールサイン」を入れます。
データ入力終了は、ハムログを終了する**前に**必ずバックアップを取ります。
(B局の場合)A局と同様に、〔初期フォルダ〕をクリックし「C:￥Club」を選び、「開始」をクリックし保存します。

●ハムログ開いた時は、必ず「自分のデータ」を間違えないように呼び込みます。
(A局の場合)〔ファイル〕→〔データのオープン〕から「Hamlog」を指定し「Hamlog. mst」を呼び出します。
(B局の場合)〔ファイル〕→〔データのオープン〕から「Club」を指定し「Hamlog. mst」を呼び出します。

＞＞　データ修正編に続く